

資料館だより

発 行 所

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 00130-7-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

言いながら、見損なつたビデオくらいは見ても、あとは二階の展示場の入口に立つだけで、わかつたような気になるらしい。

どちらにしても、三年目に入ると再度ここを訪れる人が増えそうだが、そのような人々にとつて、「前にも見た」のではなく、「改めて見直した」思いが持てる展示場を目指したい。もつとも、展示品には限りがあるから、見学者の視角を変えるなどして、初めて見たように印象付ける工夫も必要である。

大切なことだが、資料館はここを訪れる人のための

転機の年

資料館運営委員長
成田 稔



謹賀新年

もし、私たちがそのような声に応えられれば、資料館はいつまでも多くの人々に守られながら、確かな育ちを続けるだろう。

労共同編集(11月6日付)号の新聞が発行された。

一面はらい予防法特集号

▼踏みにじられた人権回復
へ▼強制隔離九十年「らい
予防法」見直しが山場▼医
療介護の充実今こそ、など

ハンセン病患者の強制隔離を規定し、患者・家族への偏見・差別を助長した「らい予防法」の見直し問題を協議してきた厚生省の「らい予防法見直し検討会」（座長＝大谷藤郎・財団法人藤楓協会理事長）は八日、予

らい予防法 废止に

厚生省の検討会が報告書

厚生省の「らい予防法見直し検討会」は、昨年十回に亘る討議を重ねた結果

厚生省は、ハンセン病療養所の入所者の医療・福祉を保障する条項を盛り込んだ予防法廃止法案を来年の通常国会に提出する。防法の廃止を求める報告書をまとめた。

来年の通常国会へ

報告書を取
りまとめ発
表した。
同日夜の
各テレビ局
のニュース
翌九日朝の
各新聞は一
斉にこの問
題を大きく
取り上げ報
道したが、
新聞の記事
に対する。

医学の常識や国際的な潮流に逆行する「隔離政策」の根拠となつた法律は、一九〇七年（明治四十年）の旧法制定から九十年近くを経て、ようやく姿を消すことになつた。

あるとして、国費による医療提供、家族への援護、障害年金一級に相当する給与金（月額八万一千八百二十円）の支給など、生活全般に及ぶ施策をこれまで通り続けるよう求めている。

めに、頼るべき子供や家族がいない

③長期にわたる療養生活の結果、療養所が生活の場になつており、入所者自身が余生を今まで通り過ごしたいと祈念している、——ことなどを挙げている。

年間十人前後発生する新規患者については、一般医療機関か外来診療で対応でくるよう、治療薬の保険適用など必要な処置を国に求めている。

また、法律・学術用語としての病名を、偏見がつきまとう「らい」という言葉からハンセン病に言いかえよう求めるとともに、ハンセン病への正しい理解を促すための啓発活動や教育の必要性を訴えている。

また、優生保護法（医師の認定によるハンセン病患者の優生手術）や出入国管理及び難民認定法（ハンセン病患者の入国拒否）の規定も同時に削除される。

森井忠良厚相は
らい予防法廃止の
定にともなって、
ン病療養所の入所
表らに直接会い、
ン病が治癒可能な
判明した後も同法
しないまま放置し

らい予防法廃止の方針決定にともなつて、ハンセン病療養所の入所者の代表らに直接会い、ハンセン病が治癒可能な病気と判明した後も同法を改正しないまま放置してきた

報告書は「隔離政策を基本にした考え方には、今日の医学的知見に照らすと、当然見直されるべきであつた予防法の見直しは遅れたと言わざるをえない」と国の政策の誤りに言及している。国立、私立合わせて十五

A vertical decorative border on the right side of the page, consisting of a continuous, vertical column of interlocking circles.



ハンセン病資料館

一九九五年年のあゆみ

昨年は「らい予防法」にゆれた一年といえる。テレビや新聞、雑誌などでハンセン病問題が、これ程多く取りあげられたことはかつてないことがあつた。

厚生省の「らい予防法見直し検討会」の報告書も出され、今年の春には何らかの新しい法律(案)が示されるものと広く期待されてゐる。

資料館も早や開館二年半となり、入館者も昨年11月で二万三五〇七人に達した。そのうち団体は三四二団体一万一〇三一人で全入館者の四七%を占めている。

次に資料館昨年一年間の主な行事を記すと、

▼青葉小学校86人の「ハンセン病新聞展」2月22日

▼菊池恵楓園、琵琶崎待労病院「昔むかし写真展」4月18日～6月30日

・「ハンセン病資料館」発行
・「テレホンカード」発行
・「ハンセン病資料館」発行

資料館



団体客で賑わう、一階受付ロビー

行

・「格の垣はいらない」出版記念会

・「東村山三十景」標設置

・NHK-TV「心の垣根をなくしたい」放映

▼資料館「周年記念フォーラム「ハンセン病の歴史を探る」6月25日

▼第二回全国精神障害者と

の交流会 8月6日

▼厚生省「らい予防法見直

し検討会」と

全患協「らい

予防法対応委員会」の懇談

会 8月10日

▼全生園看護

学校「ハンセン病の明日を考える展」

10月27日

△11月26日

関連事項

・「ハンセン病特別展示

・「テレホンカード」発行

・「ハンセン病資料館」発行

回春病院百周年 熊本で記念事業

人による記念講演会「リデル女史が後世に残したもの」が行われた。

「格のトゲ」が特選

東京都作文コンクール

読売新聞社主催の第45回

全国小・中学校作文東京都

コンクールで、聖徳学園小

学校(小平市)六年あさか

ゼ組の吉野かえでさんが、

全生園、資料館、らい予防

法のことなどを書いた「格のトゲ」が特選に入った(10月26日)。

20日は鶴屋七階ホールで映画「小島の春」を上映。

午後は猪飼隆明熊大教授、

藤本桂史・リデル・ライト

両女史記念館々長、平沢保

治・高松宮記念ハンセン病

資料館運営委員、由布雅

夫・菊池恵楓園々長が参加

してシンポジウムが開催さ

れ、患者の強制隔離を曰ざ

したらい予防法、偏見差別

の問題等の話に三百人余の

参加者は真剣に聞き入った。

21日は黒髪のリデル・ライト両女史記念館で午前中記念祭と式典、その後レイド・ボイド駐日英國大使夫

諸問題をとりあげ、偏見差別の解明にせまつている。

「しあわせの風見鶏」 熊本日日新聞が連載

熊本日日新聞では10月に「しあわせの風見鶏」と題して約一ヶ月間、菊池恵楓園を連載で紹介した。

強制収容、断種、黒髪校

事件、藤本事件、らい予防

法、宗教、生活など、ハン

セン病療養所の核心をつ

別の解明にせまつている。



ハンセン病の歴史を

人権尊重の教訓に

一九九五年九月二二日、
国立療養所多磨全生園、高
松宮記念ハンセン病資料館
を見学致しました。

犯してきた過ちと人権抑圧の歴史です。人間はなんとか、憤りと悲しみとやり

史的教訓と一緒に生かされていくことを念願していることについて、私は闇が深ければ深いほど、光を増すようないい人間性の尊いものがそこにあると感動しました。ハンセン病の歴史を人権抑圧の教訓とし、偏見差別

●看護婦 25才 女性

大変すばらしく、とても勉強になりました。患者さんの苦しみがつたわってくるような気がします。過去

●学生 20才 女性
今回二度目だというのに、やはり前回と同じようなシ
に胸が痛くなりました。

ハンセン病患者に対して
不治の伝染病、遺伝病とし
て断種や強制収容がなされ
患者及び家族が様々な迫害

切れなさを感じました。
しかしながら、患者救済の為に一生を捧げられた宗

をなくしていく側に立つことを肝に銘じました。またこの悲劇を生んだ「らい予防法」の廃止と新法制定を

だけではなく現在の患者さんの状態など、どこまで医学が進歩したのかを知りたいと思いました。

ヨツクを感じます。豊かで
あると言われる日本で、現
在も差別が続いているとい
うことはあつてはならない

史は、人間が人間に對して
びました。ハンセン病の歴
のものの悲慘さについて学
を受けてきたこと、病気そ

及び、全生園入園者と自治会が全生園の土地の緑を地域のオアシスとして市民に受け継ぎ、ハンセン病の歴

国際医療福祉大学
保健学部一年 大越友博

●会社員 32才 男性
ハンセン病という病に対
して、愛の心で患者と接し
た人々の生き様に感動した

ことだと信じています。
早く差別的な法律がなく
なつてほしいという思いで
一杯です。

先駆者⑥

コン・ウォール・リー

一八五七—一九四一

一族の使用人合わせて二〇人には達していた。幼少の頃から母より信仰教育を受け熱心なキリスト教信者であつた。

コントラスト
一八五七
先駆者⑥
當事業や、好善社経営の日
黒慰癒園などのらい患者施
設を見学した。一九一六(大
正五)年四月二〇日、リー

ル・リー 一九四一 津へ行つた。
湯之沢の入り口に草津町伝道所「平和館」を建て、二人の住居と
した。バルナバ医院を中心
に一八ホーム、教会と学校
と保育所も開設し、彼女は

五（昭和一〇）年帰郷したが、その秋から老衰により明石のミス・シメオンのもとで静養生活に入った。健康は一進一退であつたが、昭和一六年一二月一八日、八四才で昇天した。勲六等瑞宝章が贈られた。

今年是非実現してもらいたいものは①らい予防法廃止と新法制定②中山監督による映画「見えない壁を越えて」――声なき者たちの証言――である。人間性回復へ一步一歩進もう。 (修)

来館者の声

● 無職 67才 女性
ある程度のこととは知つて